

株主のみなさまへ

第101期 中間期

2024年4月1日～2024年9月30日



Contents

社長メッセージ	01
特集：マルチステークホルダーとの価値共創	03
分野別事業紹介	05
財務ハイライト(連結)	06
会社概要／株式の概況	裏表紙



代表取締役社長

植口 幸憲

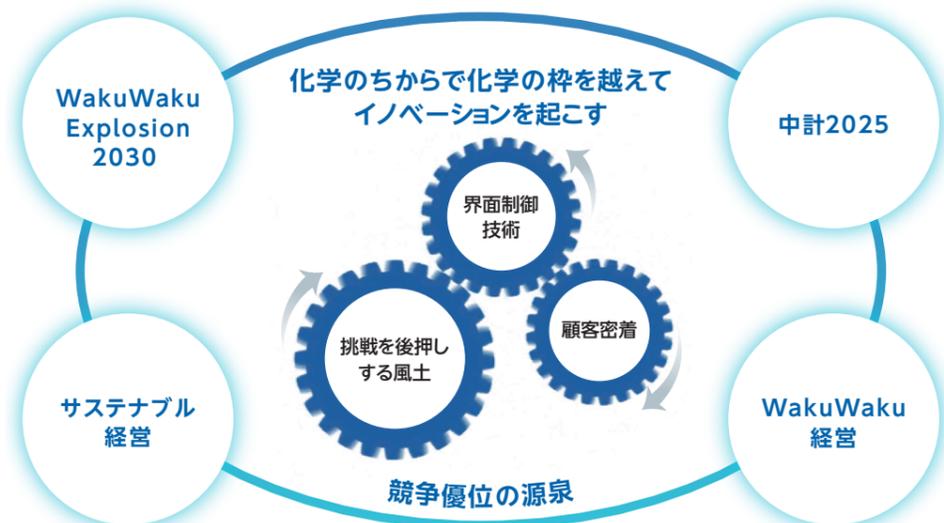
WakuWaku経営を実践し、 中計2025を実行しています。

株主のみなさまには、平素より格別のご高配をたまわり、厚くお礼申し上げます。当社第101期中間期（2024年4月1日～2024年9月30日）の事業の概況をここにご報告申し上げます。

2024年12月

社是

企業を通じて
よりよい社会を
建設しよう



当中間期における業績について

当中間期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな持ち直しが見られました。世界経済は、米国景気は底堅く推移し、欧州景気は回復傾向である一方、中国は不動産市況悪化の影響等により景気回復が遅れております。加えて、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東地域を巡る地政学リスクの顕在化を背景とした資源エネルギー価格の高止まり・物価上昇など、先行き不透明な状況にあります。

化学業界におきましては、為替相場は円安進行後、米欧の利下げや日銀の利上げなどから一転して円高方向に推移しました。また原油価格は中東地域を巡る地政学リスクの高まり等がある一方、米国や中国の景気に対する先行き不安などを背景に下落するなど、事業環境は予断を許さない状況にあります。

このような環境下における当中間連結会計期間の売上高は、高吸水性樹脂事業等からの撤退の影響などにより770億3千万円(前年同期比2.8%減)となりました。利益面

では、自動車関連産業や半導体分野の需要回復に加え、上記事業撤退に伴う収益性改善などにより営業利益は44億5千3百万円(前年同期比120.5%増)となりました。一方、経常利益は前年同期に計上していた為替差益が為替差損となったことなどにより49億9千1百万円(前年同期比0.9%増)にとどまりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は、中国(南通)で高吸水性樹脂事業を手掛ける三大雅精細化学品(南通)有限公司(以下、SDN)を南通江天化学股份有限公司に全持分譲渡する契約の締結(9月27日発表)に伴う特別損失の計上や、前年同期にあった投資有価証券売却益がなくなったこと等により9億4千万円(前年同期比78.6%減)となりました。

当社は、連結配当性向30%以上をめどに、中長期的な配当水準の向上を目指しております。中間配当金につきましては、本年6月に実施いたしました期末配当金と同じく、1株当たり85円とさせていただきます。

通期業績予想値(上方修正)と今後の取り組みについて

9月27日に発表しましたとおり、通期の連結業績予想値の営業利益は中間連結会計期間における収益性改善を受け、90億円(期初公表値+10億円)、経常利益は100億円(期初公表値+5億円)とそれぞれ上方修正しております。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、事業構造改革費用を含む特別損失が期初想定を10億円程度下回ることから、40億円(期初公表値+15億円)と同じく上方修正しております。

3月25日に発表しました高吸水性樹脂事業および中国生産事業からの撤退の進捗につきましては、前述SDN持分譲渡のほか、SDPグローバル(マレーシア)SDN.BHD.および三洋化成精細化学品(南通)有限公司はすでに生産停止し、清算手続きを継続しております。また、SDPグローバル株式会社も8月に生産停止し、2025年4月1日付で当社を存続会社として吸収合併することを11月6日に決議し公表するなど、着実に歩を進めております。

これらの構造改革の着実な実行により収益力およびキャッシュ・フローを改善させ、成長事業へ経営資源を適切に配分することで、中長期的な成長は確かなものになると考えております。引き続き、基盤事業からの展開と見直しによる収益力向上、新たな成長軌道としての新規事業開発に注力し、中計2025で目標として掲げた営業利益150億円の達成を目指してまいります。

■ 当期業績予想値

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
9/27修正予想値	145,000	9,000	10,000	4,000
前期実績	159,510	4,886	8,186	△8,501

『新中期経営計画2025』や持続的な成長に向けての取り組み等の詳しい情報は、当社ホームページのサステナビリティサイトをご覧ください。(https://www.sanyo-chemical.co.jp/sustainability/)



マルチ ステークホルダーとの 価値共創

ステークホルダーのみなさまと連携しながら、
経済的価値と社会的価値をともに向上させて、
将来にわたって持続的な成長を目指します。



株主、
投資家

統合報告書の発行、株主見学会の開催

■三洋化成グループ統合報告書2024を発行

当社はこのたび「三洋化成グループ統合報告書2024」を発行しました。当社は経営方針や持続的な成長に向けた取り組みをステークホルダーのみなさまへわかりやすくお伝えすることを目的に、2022年3月期から統合報告書を発行しています。

本報告書では、2030年のありたい姿に向けた価値創造プロセスや新中期経営計画2025の事業戦略、マテリアリティに基づくサステナブル経営等、今後の三洋化成グループの展望をわかりやすく伝えるコンテンツを掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も、株主・投資家をはじめステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを大切にしながら、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。



「統合報告書2024」は三洋化成ホームページ「レポートライブラリー」からご覧いただけます。
<https://www.sanyo-chemical.co.jp/sustainability/library/>

■「第2回 株主様向け桂研究所見学会」を開催

2024年9月25日と10月29日に、約60名の株主様(同伴者を含む)を当社の価値創造基盤である桂研究所にお迎えし、見学会を開催しました。当社の研究開発の取り組みをご紹介するとともに、当社を育んだ京都および研究所近隣の都市文化特性にも触れていただきました。午後半日にわたる株主のみなさまとの対話を通じて、株主の目線からの経営分析やご意見を吸収することができました。今後も同様のイベントを継続して企画し、持続的な成長に向けた健全な企業家精神を喚起する機会を得たいと考えており、価値創造プロセスのパートナーである株主のみなさまのご来訪をお待ちしております。



桂研究所の製品紹介ギャラリーにて

従業員

「ものづくり大改革」による 効率化と収益改善

■「ものづくり大改革」の推進に、2024年度社長賞を授与

2024年8月2日、2024年度社長賞授与式を京都本社ホールにて執り行いました。社長賞は会社経営陣がその時点において、かくあってほしいと思う事象・人物を表彰するもので、自主的チャレンジを高く評価しています。今回受賞を果たした「名古屋工場ものづくり革新センター」は2023年7月に新設した、製造プロセスの抜本的改善による生産性・収益性向上を目指す全社プロジェクト組織であり、生産現場における日々の対話や試行錯誤を通じてチームの結束を高めながら、情熱を燃やして困難に立ち向かい、設置からわずか1年で多くの成果をあげていることをたたえました。



社長賞を受賞した社員

顧客
(社会・環境)

シルクエラスチン、ペプチド農業、 匂いセンサー

■シルクエラスチン

新規の創傷治療材料『シルクエラスチン®創傷用シート』の日本国内における独占的販売権に関するライセンス契約を科研製薬株式会社(本社：東京都文京区)と締結しました。同社と連携して本製品の早期の市場浸透に取り組み、皮膚損傷の新たな治療法を提供して患者様やそのご家族のQOL向上に努めます。また、引き続きシルクエラスチン®のさまざまな可能性を追求するとともに、適宜アライアンスを通じてシルクエラスチン®の価値最大化を図ってまいります。



当社の樋口社長(左)と科研製薬の堀内裕之社長(右)

■ペプチド農業

農業分野の課題に応えるソリューションの提供の一つとして、農業におけるペプチドの活用を研究開発しています。昨今の気候変動対策へ貢献すべく、バイオスティミュラント(植物が受ける環境ストレスを緩和させる資材)機能を有するペプチド肥料を社会実装し、農業支援を本格展開してまいります。



■匂いセンサー

匂いセンサー『FlavoTone®(フラボトーン)』は、複雑で多様な匂いを可視化し、食品、医療・ヘルスケア、香粧品、安全・防災など多様な分野において、効率・利便性・精度の向上、異常検知、マーケティング・ブランディングの促進などに新しい価値を提供します。

品質管理
匂いの異常を感知し、品質管理の精度を向上させます。



●食品業界
●医薬品・化学業界

匂いセンサーの活用例
特性比較
伝えることが難しいサンプル間の匂いの違いを見える化します。



●家電業界
●クリーニング業界

モニタリング
連続した測定を通して匂いの変化を把握します。



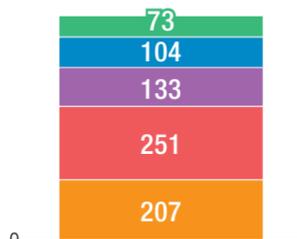
●製造業
●小売業

最新のプレスリリース情報等は、当社ホームページの「TOPICS」ページをご覧ください。
(<https://www.sanyo-chemical.co.jp/topics>)



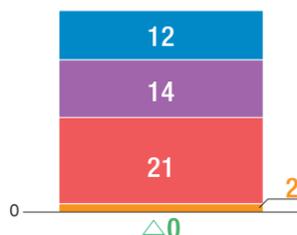
売上高構成

売上高 **770**億円



営業利益構成

営業利益 **44**億円



※各報告セグメントには、新規事業に係る研究開発費△5億円を含んでおりません。

- 生活・健康産業 関連分野
- 石油・輸送機産業 関連分野
- プラスチック・繊維産業 関連分野
- 情報・電気電子産業 関連分野
- 環境・住設産業 関連分野 他



生活・健康産業 関連分野

売上高 **207**億円 / 営業利益 **2**億円



【生活】ポリエチレングリコールの市況が回復し、売上高は増加。
【健康】高吸水性樹脂事業からの撤退に伴い売上高は大幅に減少。

- 主な製品
- 洗剤・洗浄剤用界面活性剤
 - ヘアケア製品用界面活性剤
 - 医薬品原料



石油・輸送機産業 関連分野

売上高 **251**億円 / 営業利益 **21**億円



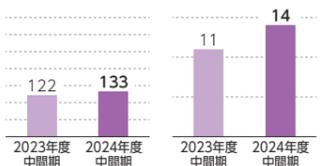
【石油・輸送機】潤滑油添加剤が需要回復により増加したものの、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料が自動車生産回復基調も海外安価品の流入があり横ばいで推移し、自動車内装表皮材用ウレタンビーズの海外向けが低調であったため、売上高は横ばい。

- 主な製品
- 潤滑油添加剤
 - ポリウレタンフォーム用原料
 - 自動車内装表皮材用ウレタンビーズ



プラスチック・繊維産業 関連分野

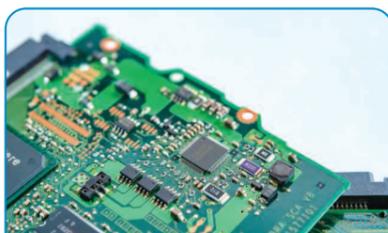
売上高 **133**億円 / 営業利益 **14**億円



【プラスチック】永久帯電防止剤が半導体・電子部品需要回復により売り上げを伸ばし、塗料コーティング用薬剤・添加剤も好調に推移したため、売上高は増加。

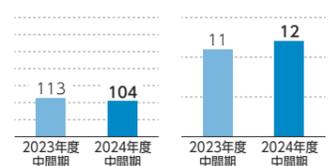
【繊維】タイヤコード糸等の製造時に使用される油剤が自動車生産の回復に伴い大幅に増加し、風力発電用風車向けの炭素繊維用薬剤も回復傾向にあるものの、合成皮革が低調に推移したため、売上高は横ばい。

- 主な製品
- 永久帯電防止剤
 - 樹脂改質剤
 - 炭素繊維用薬剤
 - 顔料分散剤
 - 塗料用樹脂



情報・電気電子産業 関連分野

売上高 **104**億円 / 営業利益 **12**億円



【情報】トナーバインダーの需要が回復傾向にある一方で、重合トナー用材料が中国における生産事業からの撤退等により低調となり、売上高は大きく減少。

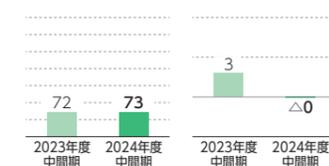
【電気電子】アルミ電解コンデンサ用電解液が横ばいとなりましたが、半導体市場の回復により関連材料が売り上げを伸ばし、売上高は増加。

- 主な製品
- 重合トナー用材料
 - トナーバインダー
 - アルミ電解コンデンサ用電解液
 - 電子部品製造工程用薬剤



環境・住設産業 関連分野 他

売上高 **73**億円 / 営業利益 **△0**億円



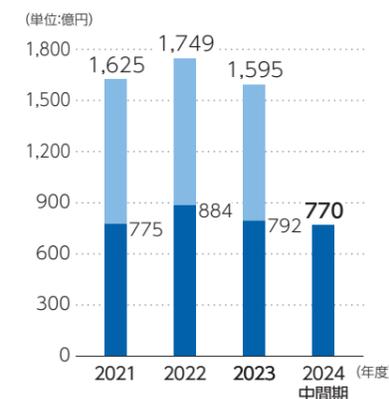
【環境】高分子凝集剤用のカチオンモノマーが市況低迷により低調。

【住設】セメント用薬剤が低調でしたが、建築シーラント用原料の販売が好調であったため順調に推移。

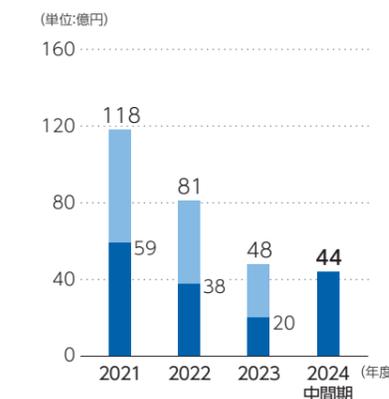
- 主な製品
- 家具・断熱材用ポリウレタン原料
 - 建築シーラント用原料

■ 中間期 ■ 通期

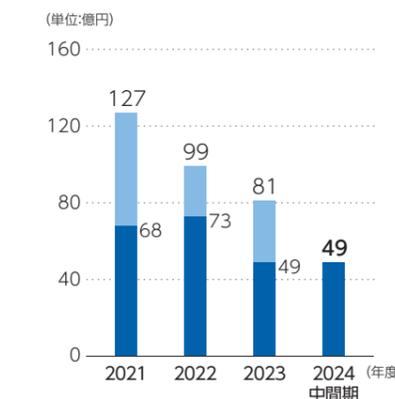
売上高



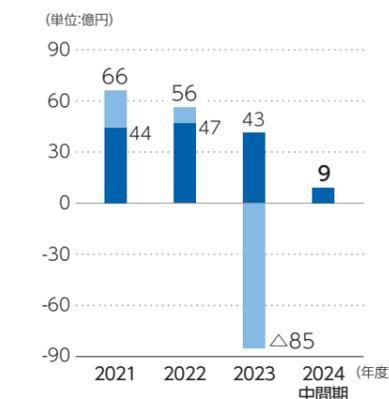
営業利益



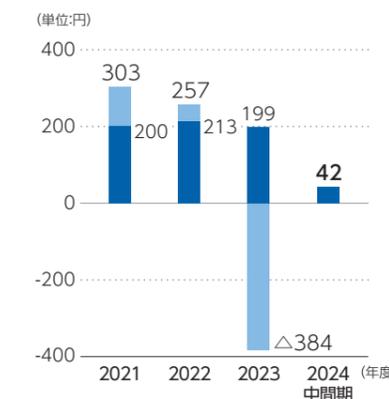
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



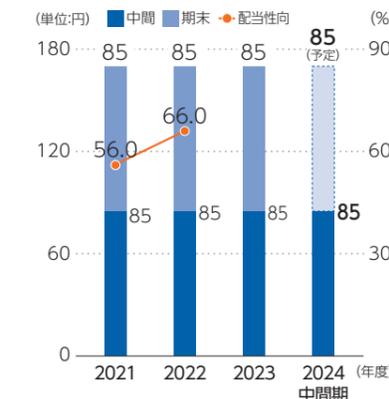
1株当たり当期純利益



総資産・純資産・自己資本比率

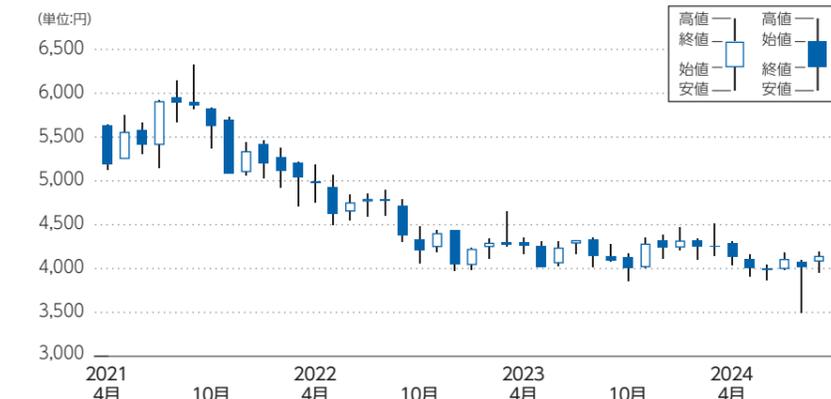


配当金・配当性向



※2023年度は親会社株主に帰属する当期純利益がマイナスのため配当性向の算定は不可。

株価



三洋化成株主・投資家 情報のご案内

詳しい財務データ等は、当社ホームページの「IR」ページをご覧ください。
(https://www.sanyo-chemical.co.jp/ir_info)

三洋化成 IR 検索



概況

(2024年9月30日現在)

創立 1949年11月1日
資本金 13,051,179,427円
従業員数 1,305名(連結1,880名)
関係会社 国内8社、海外14社

株式総数および株主数

(2024年9月30日現在)

発行可能株式総数 51,591,200株
発行済株式総数 23,534,752株
株主数 11,933名

株主構成(持株比率)

(2024年9月30日現在)



大株主

(2024年9月30日現在)

株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
豊田通商株式会社	4,286	19.3
東レ株式会社	3,826	17.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,992	9.0
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,244	5.6
ENEOSホールディングス株式会社	1,061	4.8
株式会社日本触媒	755	3.4
三洋化成従業員持株会	582	2.6
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	293	1.3
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	166	0.8
日本生命保険相互会社	154	0.7

(注) 1. 上記のほかに、自己株式1,345千株があります。
2. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除して算出しております。

役員

(2024年9月30日現在)

取締役会議長	白井 文	常務執行役員	藤井 雄一
社外取締役	樋口 章憲	常務執行役員	榎 康治
代表取締役社長兼執行役員社長	原田 正大	執行役員	土屋 稔
取締役兼専務執行役員	須崎 裕之	執行役員	宮脇 基寿
取締役兼常務執行役員	奥 喜之	執行役員	中野 達也
取締役兼執行役員	西村 健一	執行役員	山本 祐介
社外取締役	小畑 英明	執行役員	坪内 隆
社外取締役	佐野 由美	執行役員	今泉 雄高
社外監査役(常勤)	黒目 泰一	執行役員	大高 剛史
監査役(常勤)	竹内 昌		
社外監査役	加留部 淳		
社外監査役	中野 雄介		

(注) 当社は、白井 文氏、小畑 英明氏、佐野 由美氏、黒目 泰一氏、中野 雄介氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

株主メモ

(2024年9月30日現在)

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当基準日 3月31日
中間配当基準日 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 0120-782-031(フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告掲載 当社ホームページ
<https://www.sanyo-chemical.co.jp/>
上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場(コード番号 4471)

ESG トピック TOPIC

働きがいを感じる職場環境づくりを目指して

当社は、全ての従業員が自分らしさを大切にしながら、安心して働くことができる会社を目指し、働き方改革やDEI(Diversity=多様性、Equity=公平性、Inclusion=受容)推進の取り組みを進めています。

「三洋化成工業健康保険組合」は設立50周年を迎えました

三洋化成工業健康保険組合は、2024年8月1日に50周年を迎えました。単一健保として1974年8月1日に認可を受け設立され、単一健保の強みを生かした自主的な運営により加入者の疾病予防と健康増進を進めてきました。当社は、従業員の健康に関するさまざまな取り組みや活動を重要な経営課題の一つと位置づけ、会社・労働組合・健康保険組合が三位一体となって「健康経営」を推進しています。



三洋化成工業株式会社

本社：〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1
TEL：075-541-4312(コーポレート・ガバナンス部ダイヤルイン)

